

## Dance Archive Project 2018

アーカイブ資料の検証と研究を経て、大野一雄の動きを「コピー」する「大野一雄について」という作品を生み出した川口隆夫。その実演をデジタルデータで保存することで、大野一雄のモーションデータとして保存することができるのはいか、という実験的な試みです。完全コピーをテーマに踊る川口隆夫の能力を借りて、大野一雄の動きをデジタルアーカイブするという手法は、伝統的かつ最新の保存方法です。

川口隆夫によるダンスのデジタルデータは、慣性式モーションキャプチャーで記録され、VR上では、川口隆夫本人とは別の身体モデルで再現されています。

取得したデータは、身体と動作との相関的なデータではなく、独立したモーションアーカイブとして扱われています。

日時=2018年2月9日(金) 19:00~23:00

10日(土) 13:00~24:00

11日(日) 15:30~19:00

会場=北千住BUoY 2F 観覧料=自由カンパ制

主催：NPO法人ダンスアーカイブ構想 共催：有限会社かんだ

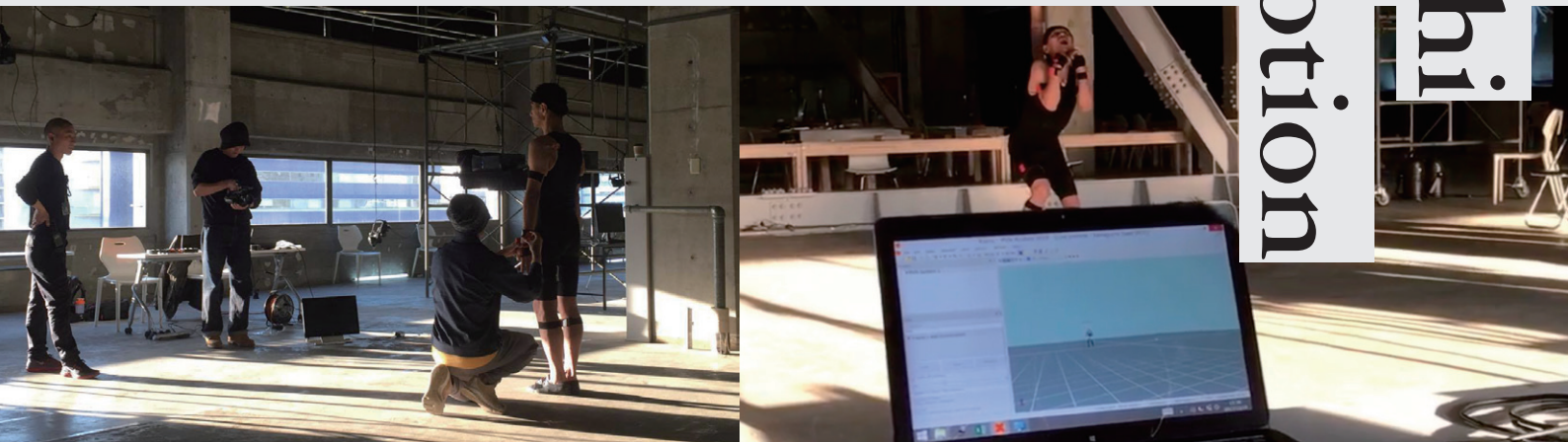
協力：株式会社 K'S DESIGN LAB 助成：独立行政法人芸術文化振興基金



# Takao Kawaguchi

## Digital 3D in Motion

### 川口隆夫が紡ぐ「大野一雄」の動きの完全再現をデジタルデータ化する



### Digital 3D in Motion Projectとは

舞踏体験の一回性を超越するために、本プロジェクトはスタートしました。昨年12月Dance Archive Project in Tokyo で公開された、「Yoshito Ohno / 3D in Motion」のモデルとなった大野慶人は「精神のダンサー」と呼ばれています。彼は、たった一人に舞踏という表現を伝えるために、踊ると言っています。

「スーダンにいる、一人の子供のために踊る。」

政情が不安定な中で生きている子どもたち。そんな人にもこそ踊りを見せたいという思いを、デジタルテクノロジーは伝えることができるのではないのでしょうか？身体表現をデジタルデータ化することで、直接舞踏を見ることができない子供も、バーチャルに体験することが可能になるはず。我々は本プロジェクトを、最新のデジタルテクノロジーや表現方法を使い、新しい表現活動の芽を育む、発信型のプロジェクトとして展開していくことを目指しています。

### 川口隆夫(ダンサー・パフォーマー)

1996年から「ダムタイプ」に参加。2000年以降はソロを中心に、演劇・ダンス・映像・美術をまたぎ、舞台パフォーマンスの幅広い可能性を探索、他ジャンルのアーティストとのコラボレーションも多い。08年より「自分について語る」をテーマに『a perfect life』をシリーズ展開。その Vol. 06『沖縄から東京へ』で第5回恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2013)に参加した。近年は舞踏に関するパフォーマンス作品『ザ・シック・ダンサー』(2012)、『大野一雄について』(2013)を発表。後者は16年秋の公演でニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、18年現在も世界各地をツアーしている。最新作は『TOUCH OF THE OTHER - 他者の手』(2015 ロサンゼルス、2016 東京)、そして『BLACKOUT』(2018 東京)。

[予約・問合せ] ダンスアーカイブ構想

氏名、連絡先、観覧日時を下記までご連絡ください。

E-MAIL : info@dance-archive.net

TEL : 03-3450-6507

[アクセス] 北千住BUoY

〒120-0036 東京都足立区千住仲町49-11

(墨堤通り側入り口)



### 関連プログラム

レクチャーパフォーマンス | ダンスハ体力育ナリ? 其ノ式「建国体操を踊ってみた」

日時: 2018年2月11日(日) 11:00~12:00 / 14:30~15:30 会場: 明治神宮外苑聖徳記念絵画館

チケット: (完全予約制) 一般2,000円、学生1,000円 ※当日会場でのチケット販売はしませんので、あらかじめご了承ください。

<http://buoy.or.jp>